＊ 編 集 後 記 ＊

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から５ヶ月が経とうとしておりますが、未だ復興の兆しも弱々しく、被災された皆様に対して心よりお見舞い申し上げます。

この地震を経験してジオシンセティックスに携わる我々の立っている位置が相当変わってしまったと感じています。今号は、実質震災後初の情報誌ということで、三木支部長を筆頭に、ジオシンセティック学会を強くサポートしていただきつつ、今回の震災を直接経験された、安原先生と熊谷先生・金子先生にも「特別展望」をご執筆いただきました。ジオシンセティックスに焦点を当てつつ、震災を捉えた初めての報告となっています。特に、三木支部長のサブタイトルには－地域再生のための処方箋（その２）－となっています。その１は2010年３月号の「展望」にてご執筆頂いております。是非とも、バックナンバーを取り出して読み比べていただきたいと思います。

また、２編の技術報文とも、図らずも耐震性に関する内容となっております。ジオグリッドによる圧力管路屈局部の耐震化工法は、ジオグリッドの持つ強度特性、摩擦特性を活かした有効な防災技術と思われ、今後の実用化に期待されるものと思われます。さらに、ジオセル擁壁工法の震災後調査を通じた報文では、本工法の耐震性についても一定の評価が出来るものです。今後の工法普及に、より期待が持てるのではないでしょうか。いずれの技術報文もジオシンセティックスを用いた防災技術として今後の発展、展開に期待がされるもので、読者方々の参考となれば幸いです。

末筆となりましたが、ご多忙の中、原稿執筆を快諾して頂き、編集に協力頂いた皆様に心より感謝し、御礼申し上げます。

本号担当：西村　淳，荻迫栄治，小浪岳治

ＩＧＳ日本支部編集委員会（名簿）

委員長	木幡　行宏	室蘭工業大学大学院工学研究科くらし環境系領域社会基盤ユニット
幹事	西村　淳	三井化学産資(株) 環境資材事業部
幹事	桝尾　孝之	太陽工業(株)国土環境エンジニアリングカンパニー 事業開発室
委員	内村　太郎	東京大学大学院工学系研究科
委員	荻迫　栄治	清水建設(株)技術研究所
委員	小浪　岳治	岡三リビック(株)技術部
委員	高橋　真一	(株)大林組技術研究所
委員	川島　則子	(株)クラレ 東京繊維資材部
委員	原田　尚幸	(株)錢高組技術本部技術研究所
委員	平川　大貴	防衛大学校システム工学群建設環境工学科
委員	土橋　和敬	前田工繊(株)技術部
委員	江崎　孝二	ユニチカ(株)不織布技術部

ＩＧＳ日本支部会員現在数（2011年７月末現在）

個人会員　221名　学生会員　19名　特別会員　19社　合計　259名

平成23年７月30日

ジオシンセティックス技術情報（国際ジオシンセティックス学会日本支部・会誌）Vol.27、No.2

発　行：国際ジオシンセティックス学会日本支部

〒112-0011　東京都文京区千石４丁目38番２号　（公益社団法人　地盤工学会内）

事務連絡：〒338-8570　埼玉県さいたま市桜区下大久保２５５

埼玉大学地圏科学研究センター　桑野研究室内

TEL 048-858-9239　FAX 048-858-9239　E-mail iju@jcigs.org